

大項目	総則
小項目	目的
意見、課題	<p>①条文に盛り込むべき事項、内容及び表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体の条例を見ても共通する内容が多い。関市らしさを条文に盛り込みたい。 ・「持続可能な」の主文が抜けている。「〇〇について持続可能な」など明確にする必要がある。 ・分かりやすい内容にすべきである。 ・市民一人ひとりが覚悟を持ってまちづくりを進めていくことを内容に含めてほしい。 ・目的はシンプルで分かりやすい内容、表現にすべきである。「豊か」、「幸せ」などをキーワードとして含める。 ・「住みやすい」「自然豊か」「思いやりの心」「夢」「前向き」などの表現を含める。 ・合併した旧町村との一体化を醸成することが大切である。 ・「地域主権」「住民主権」について明確にすべきである。 ・幅広い住民参加を促すことが大切である。 ・未来に希望が持てること、夢が持てること、前向きなことを盛り込むべきである。 ・目的は、基本理念が良い。具体的なことを盛れば盛るほど、理念と離れていく。「協働のまちづくり」という言葉が分からない。分かりやすい表現でうたうべき。 ・難しい言葉が多く、一つの文が長い。簡単な言葉、表現を使うべきである。 ・「住みよい」の定義があいまいである。 ・自治の基本理念であり、最高規範にする条例であるので、「市民はこうあるべきである」といった内容を規定すべきである。 ・「市民主体の自治の確立」は、行政、議会、市民で自治をつくるべき、三者で関市を創るのである。「自主自律したまちづくり」とした垂井町の表現は分かりやすい。 ・「市民主体」という言葉にこだわる必要はない。 ・市長や議員は市民が選ぶのだから、自治の中心は市民である。その意味では、市民主体で自立した姿である。 ・ユニークな文章にしてほしい。「まちづくり」と「ひとづくり」を併記する。独特の表現や内容の条例にしたい。「一人一役」などの表現はどうか。 ・素のいいものをつくれれば良いと思う。 ・「市民の権利と役割」を規定することから、市民にも負担を強いることになる。いい意味で危機感を喚起できるワードを入れることも考えるべきである。行政におまかせではいけない。市民も自覚を持つべきである。 ・市民はこれまで権利ばかり主張してきた。これからは市民にも役割があることを認識させるべきである。 ・もっと簡略するべき。この条例は市民自治の確立を図ることを目的にすると良い。 ・協働のまちづくりは、市民、議会、行政の3者が協力して推進していくものである。特に人づくりが重要である。そのことから持続可能な地域社会を創るのである。 ・「基本原則」なのか、「基本理念」なのか検討する必要がある。 ・協働の解釈が分かりづらい。誰と誰の協働なのか、規定する必要がある。 ・「市民の権利や役割」など市民に対する規範、縛りつけるような内容はあまり規定しないほうが良い。市民、行政、議会に対する用語の使い方や表現は検討すべきである。 ・高齢者、子どもまで「住みやすい」といったワード（表現）を入れる。
	<p>②問題点、課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能動的な市民でありたい。 ・自治基本条例を策定するにあって、経済的側面を考えなくてはならないことを知った。今はまだ、何が目的なのか判然としない。これから先運用していくものであり十分な議論が必要である。 ・住みやすいまちづくりを目指す。社会的な弱者を守る。「思いやり」がある地域社会の実現、笑顔があふれ、ここに住みたいと思えるためのルールづくりが必要である。 ・福祉の面の充実は、これからの社会に必要なものである。他市の条例をみても目的の内容や表現に大差はない。意見をたくさん出し合ってつくることが重要である。

大項目	総則
小項目	目的
	<p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治基本条例は理念条例であるので、名称も「〇〇理念条例」「〇〇宣言条例」とすべきである。 ・条例には住民投票など重要な条項も規定されるので、理念では困る。 ・言葉の定義があいまいで、議論が深められない。活字にとらわれて意見が出ない。思いつままま自由に意見を出し合うところからまとめてみてはどうか。 ・前文のアンケートを早く進め、前文の理念を考えたから目的を検討すべきである。 ・法律に基づく権利について、条文に盛り込むべきか検討すべきである。そのためには、全体を通して議論する必要がある。 ・「地域自治区」（恵那市、新城市）について、同時に議論したい。